

感動を共有する、文化の薫り高い芸術創造発信拠点施設  
— 基本構想より

施設整備の目標

那覇市の新たな文化芸術振興の拠点として、また、まちづくりの中核施設として、人やまちが元気になり、これまで以上に魅力的な那覇市が創造されることを目指して「那覇市新文化芸術発信拠点施設」を整備する。

施設の特徴

- ・文化都市「なは」の象徴となる県内随一の「都市型公共劇場」
- ・市民が気軽に訪れる憩いと交流の施設
- ・県内唯一の総合的な文化芸術発信拠点施設

— 基本計画より

外観の特徴

- ①首里織皮膜  
首里の伝統的織物をイメージしたルーバーで、施設全体を包み込む。
- ②緑豊かな低層部  
緑を連続させ潤いのある景観をつくる。

那覇市新文化芸術発信拠点施設 名称の決定について

昨年の夏、多くの人に愛され、親しまれ、広く活用していただける事を願い、新・拠点施設の名称募集を行いました。応募作品数1007作品の中から、以下のとおり正式名称が決定しました。

那覇文化芸術劇場 なはーと

この名称には、那覇市の心（Heart）を揺るがず芸術（Art）の発信拠点として人々に親しまれ、文化芸術が発展するようという願いを込めて作られています。

【大ホール】



(画像はイメージです)

■大ホール機能詳細

【舞台サイズ】

主舞台  
間口：11間  
奥行き：10間  
(水平線から舞台先端までは8間)  
袖舞台  
上手袖：約5間×10間  
(含袖幕エリア、一部使用不可)  
下手袖：約5間×10間  
(含袖幕エリア、一部使用不可)

【舞台設備詳細】

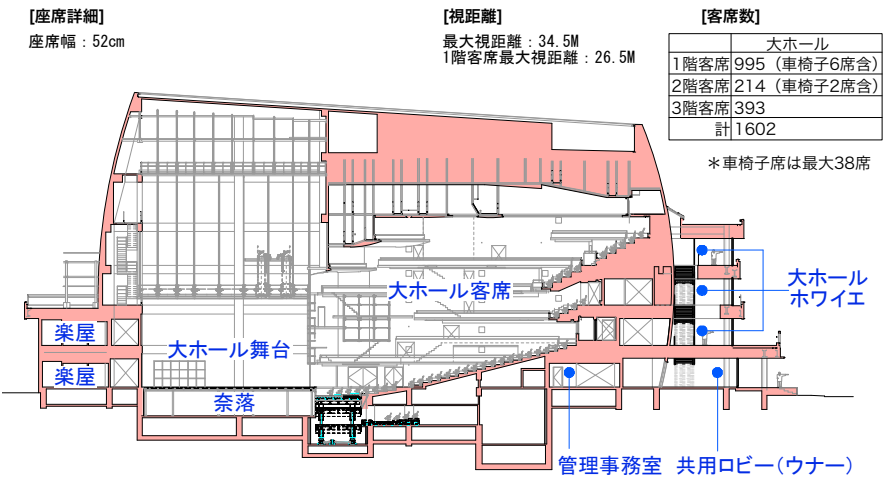
オーケストラピット  
音響反射板  
・天井反射板  
・正面反射板  
・側面反射板  
吊物バトン  
照明ブリッジ  
可動プロセニウム(上下)

【プロセニウム詳細】

PW：11間(袖幕で調整可)  
PH：9M~12M(可動プロセニウム)

高度な文化芸術公演の誘致と市民の文化芸術活動の支援を両立する 大ホール

- ・吊物機構、照明、音響設備の他にオーケストラピット、音響反射板を整備し、専門性の高い公演と市民利用のどちらにも対応可能な使い勝手の良いホールとする。
- ・客席は3層とし、階が上がるにつれ客席が内側に張り出す他に類を見ない構造とし、3層でありつつも視距離が近い、安全性と見やすさを兼ね備えたホールとする。
- ・サイドバルコニー席の高さを低く抑え、一部を2段構成とした4層とし(計6段)、客席の密度を高めることで一体感を有する配置とする。また、複層のサイドバルコニーがプロセニウムの直近まで回り込むことで音響底の役割を果たし、初期反射音を強める。
- ・ホールの形状、内壁等の材質、音響反射板の工夫などにより建築音響性能を高め、優れた音響環境を実現。
- ・ホワイエ舞台ー中通路と段差なくフラットに繋がり、また、車椅子席を複数箇所(1階客席中通路、1階客席後方、2階客席後方)に計画しバリアフリーに配慮。
- ・1階客席(995席)2階客席(214席)3階客席(393席)計1602席。



【小ホール】



(画像はイメージです)

■小ホール機能詳細

【舞台サイズ】

主舞台  
間口：6間  
奥行き：5間  
(水平線から舞台先端までは4.7間)  
袖舞台  
上手袖：3間×5間  
(含袖幕エリア、一部使用不可)  
下手袖：3間×5間  
(含袖幕エリア、一部使用不可)

【舞台設備詳細】

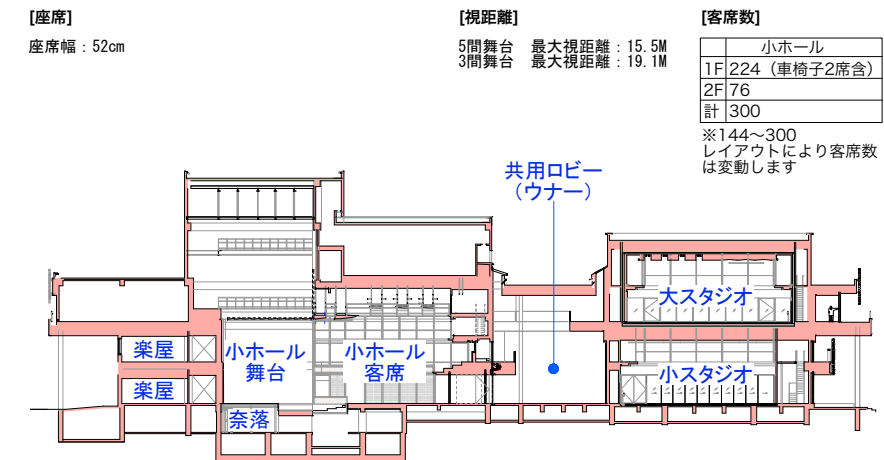
客席迫り  
正面反射板(建築固定壁)  
側面反射板(手動旋回式)  
フロントサイド  
可動プロセニウム(上下)  
ウイングバトン(手動旋回式)  
吊物バトン

【プロセニウム詳細】

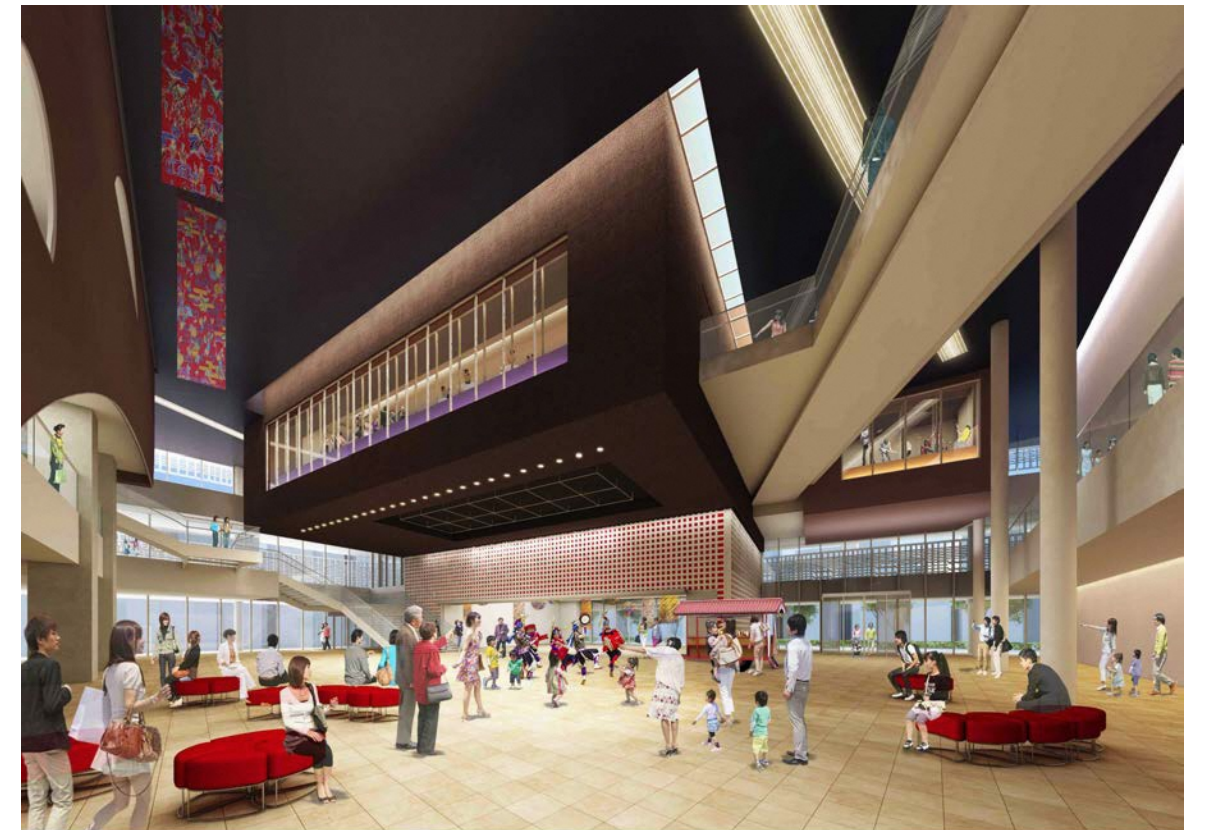
PW：6間(ウイングバトンで5間まで調整可)  
PH：7.2M~8.8M

あらゆる用途に対応可能な高い基本性能を持った、フレキシブルな小ホール

- ・ホールとしての基本性能(音楽会場としての響きと芝居小屋としての親密感、見やすさ)を専用ホール並みに高めた小ホールであるが、発表会等身近なイベントにも利用のできるあらゆる用途に対応可能な移動客席のホールとして整備する。(十分な高さのフライタワー、大ホールと同等性能の吊物設備、客席迫り、可動プロセニウム等)
- ・移動観覧席を採用、平土間形式での利用、舞台形式での利用と目的にあわせた使い方を選択することが可能。
- ・移動観覧席は収納後舞台の最奥まで動かすことができ、小ホールとウナー空間(共用ロビー)を一体的に活用が可能。
- ・ホワイエ舞台ー中通路が段差なくフラットに繋がるバリアフリーに配慮した使いやすい構成とする。
- ・ホールの形状、内壁等の材質、音響反射板の工夫などにより、建築音響性能の高いホールとする。



【共用ロビー(ウナー)】



(画像はイメージです)

四方に開き自由に回遊できる、すべての人の憩いの庭となる共用ロビー

- ・天井が高く、外部に大きく開き内外の境界がないロビー空間。まちな「ウナー(御庭)」。
- ・ウナーには大小ホールのホワイエや、各練習室が顔を出し、活気と賑わいがあふれる空間とする。
- ・ウナーに張り出した大練習室1の下にグリッドパイプ、照明用のコンセントを設け、イベント盤を設置する。ウナーを利用したイベントや、小規模なロビーコンサートなどの開催が可能。
- ・ウナーの一角にギャラリーを用意、ピクチャーレールを備え、小規模な展示が可能。

【ロビー設備】

- ・グリッドパイプ
- ・コンセント
- ・音響設備
- ・授乳スペース
- ・ロッカースペース
- ・多目的トイレ
- ・給湯スペース 等

【大スタジオ(約9間×9間)】

公演利用も可能な大型練習室1

- ・大ホールの舞台と同程度の広さを持つ練習室。リハーサル室としての利用が可能。
- ・天井に巻き上げ機とグリッドパイプを配置。仮設で椅子を並べることで、公演利用も可能となる。

【小スタジオ(約9間×6間)】

開放的な大練習室2

- ・外部、ウナーの両側に向かって開放することが可能。
- ・大練習室2を開放することによって、街とウナーを一体化した大型イベントの開催が可能。

【練習室1~4】

コンパクトで使いやすい練習室

- ・用途に合わせた異なる特徴を持つ各種練習室を用意

室名	面積(m <sup>2</sup> )	階	大きさ	特徴
練習室1	約33	2階	2間×6間	音の響きを考慮した内装
練習室2	約32	3階	2間×6間	ダンス等の練習に適した柔らかい床
練習室3	約42	3階	3間×3間	吸音を考慮した内装
練習室4	約35	3階	2間×6間	ダンス等の練習に適した柔らかい床

【楽屋】

大小様々な種類の楽屋を用意、多種多様な講演内容に対応

	楽屋数( )内の数字は化粧箱の数	その他附属施設
大ホール	楽屋D1(個室:シャワー、トイレ7/有) 楽屋D2(個室:シャワー、トイレ有) 楽屋D3(10)楽屋D4(13)楽屋D5(12) 楽屋D6(25:可動間仕切りで分割可) 楽屋D7(11)楽屋D8(11)	アーティストラウンジ、楽屋事務室、シャワー室、トイレ、多目的トイレ、給湯スペース、
小ホール	楽屋S1(3)楽屋S2(9)楽屋S3(11) 楽屋S4(9)楽屋S5(12)	アーティストラウンジ、楽屋事務室、シャワー室、トイレ、多目的トイレ、給湯スペース、